

群馬県立渋川特別支援学校 学校評価一覧表(令和7年度版)

(様式)

評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策	点検・評価			達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
				自己評価	外部アンケート等	総合			
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	①学校からの各種よりや学校ホームページで情報発信を行い、80%以上から肯定的な評価を得ている。	①学校ホームページや校門脇の掲示板、町内の回覧板を利用し、学校行事や教育活動の様子がわかるようにする。 ②ホームページをより充実させ、教育活動の積極的な情報発信を行う。	A	A	A	学校ホームページの内容充実と更新頻度の向上により、学校行事や教育活動の様子が継続的に伝えていることに加え、目標値である80%を大きく上回る97.7%から肯定的な評価を得ることができた。	学校のことを知っているという説明が分かるが、外部の人が聞くとわからないと思う。 オンラインを活用しているが、PTAの活動もオンラインでできたらよいと思った。	今後も校門脇の掲示板や町内の回覧板、学校ホームページを効果的に活用し、学校行事や教育活動の様子がより分かりやすく伝わるよう、情報発信の充実を図っていく。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	②保護者、地域、関係機関と連携して、児童生徒一人一人の実態に応じた個別的教育支援計画を策定し、その実践に努めていると保護者等の80%以上から肯定的な評価を得ている。	①面談で保護者の願いを丁寧に聞き取る等、話し合いの中で目標や支援内容を具体化する。個別的教育支援計画に基づいたケース会議等で保護者や関係機関と情報交換を行い、支援を継続したり、付け加えたしなながら、実践を積み重ねていく。	B	A	A	学校と保護者が連携して一人一人の実態に応じた教育支援計画を作成し、その実践に努めていることに加え、およそ95%の保護者から肯定的な評価をいただけたことができた。 教職員については、個別的教育支援計画の策定と実施については、Aの評価は10%台であったが、A、Bの評価を合わせると70%以上だった。	今後も、学校、保護者、関係諸機関が情報を交換し合い、支援を共有するために、支援会議や個別面談で個別的教育支援計画を活用してもらえよう職員会議等で呼びかけていく。	
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	③地域の特別支援を必要とする乳幼児・小中学校等の児童生徒の支援を年間のべ150件以上実施する。	①関係する機関と連携しながら、訪問相談や電話相談、来校による発達相談を実施し、継続的な支援を行う。	A	B	B	本校が特別支援に関するセンター的な役割を担っていることを、約70%の教職員が意識することができた。地域の園や学校への支援について、知っていると言った保護者は80%であった。		1月末時点の支援件数は202件、授業研究会の指導講師が2件、研修会議が2件、発達相談について2名が継続的に活用している。教職員全体で協力しながら業務を担当していきたい。
	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑤個々の児童生徒について、個別の指導計画の目標を設定する。学年会や学習グループ等の会議で、目標達成のための具体的な指導方法を精選したり、指導の評価を行ったりすることで、指導の改善や見直しをする機会を年間3回以上設けている。	①個別の指導計画の目標達成率を毎学期2回以上確認し、年間指導計画の目標に照らし合わせて達成率を確認する機会を設ける。	B	A	A	学校参観や学校公開については、約77%の教職員が協力して業務を行えたと回答している。直接的な役割がなかったと回答した教職員は、授業公開を通じ、本校の取り組みを伝える機会を提供していた。保護者の約90%から、本校が地域に向け、特別支援教育に関する情報提供を行っていることを知っているという回答を得た。	和太鼓チームは、人数が少なくなっているというところだったが、どうなったか。 児童・生徒も少しずつ成長している様子が窺えた。 自分たちが成長して、子供たちが成長して、教育の成果が見られた。一人一人の自立度が高まっていると感じた。コロナ禍から安全活動を戻していく中で、単なる復活ではなく、様々な所で工夫をしていることがうかがえた。素晴らしいと思う。はるな祭を見させてもらった。車椅子だと動るのが大変だった。 販売は楽しかった。(陶芸)の小どんぶりがよかった。続けてもらいたい。ご飯も作ってもらいたい。 先生たちの工夫が見られた。ミヤマクなど時代のものを取り入れたのが印象的だった。 作品で好きな部屋の再現がよかった。 眼鏡ケースの完成度が高かった。 スタンプラリーは車椅子の人は難しい。 日程表がシンプルで見やすかった。人によっては小さく見づらいという意見があった。	学習グループや学級・学年の教員に加え、各部署の教職員が、指導に当たる児童生徒の個別の指導計画を活用する。児童生徒の実態や有効な指導方法等と共有し、相互理解を図ることで、より一層のきめ細やかな指導に努めていく。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑥年間指導計画に掲げた目標の達成率が75%以上となるよう、的確な実態把握とねらいの明確な授業実践を行う。	①個別の指導計画の目標達成率を毎学期2回以上確認し、年間指導計画の目標に照らし合わせて達成率を確認する機会を設ける。	B	B	B	7割以上の教職員から肯定的な回答を得ることができた一方で、目標達成率や指導方法の見直しを行う機会が十分に確保できなかったという回答も見られた。また、9割以上の保護者からも肯定的な回答を得ることができた。	修学旅行の行き先はどこか。 学校のキャラクター誕生の発表は、児童生徒がどんなキャラクターに決まったのか、大変、盛り上がりがあった。 はるな祭のオープニングセレモニーでは、司会を担当していた2人は、役に足りず、すばらしい演技力だった。それぞれの個性を生かした指導がされている様子が見えた。 作品の製作は、子どもたちそれぞれに寄り添って指導され、一生懸命とくんだ様子が見えた。 はるな祭では、伝統として引きつがれている踊りなど道力があるもの、児童・生徒の個性を生かしながら教育効果があがっているものなど、多くの先生方の創意工夫と努力が見えた。 小学部のサツマイモ掘りでは、縦割りの作業で、文化の継承に努めていたり、中学部では各学年の発表で、たくさんの人たちの前で発表する経験をしたり、高等部では受託の仕事を入れて、地域とのつながりを大切にしていたり、寄宿舎では個性を生かした活動をされていたり、それぞれに工夫が見られた。今後も期待できる。	個別の指導計画の目標達成率や指導方法の見直し等を行うための具体的な方法を提案するとともに、ICTを活用した指導を行うことで、教職員間の情報共有を図り、指導内容の確実な定着を図る授業実践に努めていく。
	6 児童生徒の発達段階や生活年齢、ニーズに応じた授業実践や寄宿舎生活を送るための研修が行われていますか。	⑦年間を通じた研修に対し、80%以上から肯定的な評価を得ている。	①研修回数や内容を精選するとともに、研修の目的を共通理解することで、効果的かつ効果的に研修が実施できるようにする。 ②学部を縦割りにしたグループを編成し、昨年度、作成した「渋特教材BOX」を学校全体で有効活用していくための研修を通して、教員のICT活用能力の向上を目指す。 ③寄宿舎では、指導員にアンケートを取り、日々の業務の中から必要となる項目を厳選して、研修を実施する。	B	B	B	今年度のグループ研修は、ICT教材の共有化の推進(渋特教材BOXの活用率向上)を目指し、教材BOX活用率の明確化、手順のマニュアル化を行い、全体に周知した。各教員が活用したICT教材を共有することで、効果的であった教員の共有もできた。研修に参加した教員の71%から肯定的な評価を得ることができた。寄宿舎では、実情に合わせた研修を実施するために、それぞれの指導員にアンケートを取り、すぐに業務に生かせる研修を行うことができた。	多くの教職員が日々の業務に生かせる研修を実施するために、今まで積み重ねてきた研修を生かしつつ、生成AIの活用に向けた研修など職員にニーズに応じた研修を設定する。	
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	7 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑧児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の80%以上から理解を得ている。	①児童生徒の健康状態について、日頃から担任・保護者間で情報交換を密にし、連携して基本的な生活習慣の確立を目指す。 ②定期健康診断、学校保健委員会、日常的な校医からの指導助言を日々の児童生徒への指導や対応に生かす。 ③学校ホームページや朝会連絡、連絡帳や保健便り等で、感染症予防や健康に関する情報提供を行い、保護者と情報交換が行えるようにする。 ④手洗い・手指消毒・適切なマスクの使用・うがいなどを習慣化し、換気・健康観察・換気・消毒などを徹底して感染拡大の予防に努める。 ⑤食物アレルギーの対応について学校全体で組織的に取り組む。	B	B	B	職員間では感染症情報や対策を共有し、保護者に対しては保健便り等により感染症対策を周知してきたため、早めに対応することができ、コロナやインフルエンザの大きな集団感染を引き起こすことなく過ごすことができた。しかし、保護者から、感染症に関する情報提供が十分でないという意見をいただいたので、感染症情報の提供の仕方について検討していきたい。	アレルギーの児童生徒が6名いるというところだが、ひどいのか、アレルギーがある大変である。校外学習も大変と思う。 百日咳が流行しているが、学校ではどのようなか。 てんかんを持つ生徒の修学旅行への保護者付き添いはどうなっているか。	今後も基本的な感染症対策を続け、感染症拡大の予防に努める。日常生活の指導等を通じて、児童生徒自身の健康を守る意識付けを継続指導していく。保護者の要望に答えられるよう、感染症情報については、個人情報に配慮すると共に、感染状況に応じた適切な判断し、伝えられる範囲で発信するようにしていく。
	8 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑨避難訓練を年4回実施し、災害時の対応について、保護者と教職員双方の80%が満足している。	①危機管理マニュアルを職員全体に周知する。 ②避難訓練の様子を学校ホームページや連絡帳などで保護者に知らせるようにする。 ③教職員は危機対応マニュアルを十分周知し、教職員・保護者双方から80%以上の満足を得ている。	B	B	B	年度初めの職員会議で危機管理マニュアルを職員全体に周知した。また、学校安全計画を学校ホームページに掲載した。マニュアルについて教職員から94.1%が肯定的な評価であったが、そのうちの70.6%は「まだいいあてはまる」であった。周知の方法や見直しについて改善していきたい。 避難訓練の様子は通信や連絡帳を通じて保護者に知らせた。96%以上の保護者が避難訓練を実施していることを知っているという結果であった。	危機管理マニュアルについては、緊急時に備えて全職員が保管場所や内容を理解できるように改善していきたい。そのため、危機管理マニュアルと避難訓練の教職員の動きを一貫するよう、マニュアルと訓練方法を検討していく。	
V 将来の生き方に結びつた進路指導を行っていますか。	9 キャリア教育の観点から、指導内容を整理して体系的な指導を行っていますか。	⑩キャリア教育全体計画を基に、児童生徒一人一人のキャリア発達に応じた支援を教職員の80%以上が意識して日々の実践を行っている。	①来校者について、教職員は来校者証着用の確認や挨拶、声かけの励行)については、約9割の教職員が肯定的な回答をしており、約8割の保護者からも理解を得ることができた。	B	B	B	約60%の職員がキャリア教育の視点をもった計画的な指導を行っている。研修等の機会を通じて、高等部での教育や卒業後の進路先について情報を発信、共有していくことで、より意識的になっていく。	職員向けの情報発信や研修会について内容や実施方法について検討する。	
	10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑪進路先訪問、現場実習巡回指導、進路ガイダンス等、情報交換の機会を多く設定する。 ⑫関係機関との情報交換の場5回以上参加し、内容を保護者と共有する。 ⑬進路だより配付や、HPへの掲載により周知を図る。	①「寄宿舎生活の様子」に「保護者・本人の願い」、「目標」、「支援方法」等の項目を加え、保護者や舎生の意見を聞き取り、明確に目標を定めて実施に即した支援を行うよう努める。 ②定期的に保護者、クラス担任と情報交換を行い、足並みの揃った支援を行うよう努める。 ③日々の生活の様子や支援方針を伝えるため、様だよりを毎月発行したり、寄宿舎参観を開催したり、必要に応じて個別面談を行う。	A	A	A	学校参観や現場実習、進路ガイダンス等に、90%以上の保護者に参加していただいた。今後も保護者の方の理解をいただき、多くの方に参加していただけるよう努めていきたい。	進路ガイダンスは、より多くの保護者の方に参加いただけるよう講師の選定や内容について精査していきたい。また、新しい福祉サービスである「就労支援」の周知についても、関係機関と連携を図りながら進めていきたい。	
VI 自立に向けた生活指導・支援を行っていますか。	11 保護者や教職員と連携をとり、日々変わっていく児童生徒一人一人の実態に応じた生活指導・支援を行っていますか。	⑭報告・連絡・相談を密に行い、保護者、担任、寄宿舎指導員が一貫した支援指導に努めていると、保護者や教職員の80%以上から評価を得ている。	①「寄宿舎生活の様子」に「保護者・本人の願い」、「目標」、「支援方法」等の項目を加え、保護者や舎生の意見を聞き取り、明確に目標を定めて実施に即した支援を行うよう努める。 ②定期的に保護者、クラス担任と情報交換を行い、足並みの揃った支援を行うよう努める。 ③日々の生活の様子や支援方針を伝えるため、様だよりを毎月発行したり、寄宿舎参観を開催したり、必要に応じて個別面談を行う。	A	A	A	以前より情報共有に活用していた「寄宿舎生活の様子」に、「保護者・本人の願い」、「目標」、「支援方法」等の項目を加え、実態把握の上で明確に目標を定めて実施に即した支援を行うよう努めた。また、舎生の変化について気になる点があれば同僚や主任に報告、相談し、手引きに沿った対応と情報共有をすることができた。そういった諸々の対応の結果、96.7%以上の保護者、職員から理解を得ていた。	寄宿舎は希望通りに入れているのか。 保護者と話す機会があったのだが、家の仕事に関心を持って、するようになったということ、寄宿舎にもすこ感動されていた。	「寄宿舎生活の様子」作成に当たり、それぞれの項目への記入事項について、作成者間で意識のばらつきがある。より実態に即した支援の実現及び、保護者や舎生が自覚する目的のための進路を明確にするため、今一度記入内容の検討をしていきたい。
	12 誰に対しても気持ちのよい対応を行っていますか。	⑮気持ちのよい対応を行っている、保護者や職員80%以上が感じている。	①電話の相手方や受付・事務室への来校者を待たせたくないよう、職員間で情報共有を行うと共に、誰に対しても公平で誠実な対応を実践するよう心掛けていく。	A	A	A	日々の行事予定を確認する等のほか、職員間で来校者予定や電話の発信情報共有し、丁寧・迅速な対応を実施することができた。また、毎日の清掃等で環境美化も兼ねながら行うことができていたので、総合評価をAとした。	来年度、ハード面、ソフト面にバージョンアップできるように、引き続き丁寧な情報共有を実施していく。手続が速いことなど意見をいただいたので、待たせない工夫はいろいろ、感じさせない対応も大事だと考え、行動していきたい。	